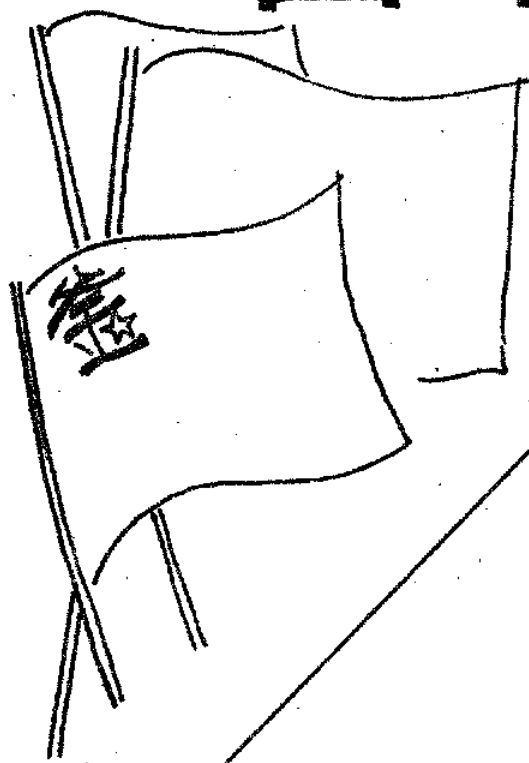


第14回釜ヶ崎越冬斗争

'83 ~ '84

目利えっとう

★ 台無版 ★



第14回釜ヶ崎越冬斗争実行委員会

★ 情宣班

1983
12/14

寄せ場・全労仲者の
連帯で右傾化を撃てろ

争議団
632-4273

参加 集会 討論 労働者 友誼 あう 語り 冬越の 自身の 仲間

60年
西成市民館で

越冬スローガン

寄せ場 - 全労仲者の連帯で
右傾化を撃て

- 一 アスレ地獄に特出しを出せ
- 一 目標健康の停止を許さんぞ
- 一 臨日の広をく買主化をはかれ
- 一 毎崎に平いと生活の拠点を作ろう
- 一 行路病死「攻撃を許すな」
- 一 アオカニまする仲間の差別 鷹を許すな
- 一 有翼力団と闘う山谷と連帯しよう
- 一 貧困と差別を増大する戦争準備内閣
打ち倒せ

仲間たちの。
今日の夕方の時半から、
市民館の三階で、越冬半
集まりやってもいいのよ、
我々自身の問題をどう解
んなさどうあけるのよ、
など、今年の越冬の方針
を定めるための会談をこ

アオカニまする仲
間には、差別・鷹撃がも
る福祉削減という中で、増
マキびしい。
このはならぬ、仲間自身が
話し合い、共に闘おう。

山谷から報告
山谷での大規模な
争議団一口争議団一家
西戸組との闘いも、彼ら
がマンモス交番のホリに
守らなければ向きそ
ないといふまで道い込ん
でいる。

このから山谷も越冬半
争に入っていく。この越
冬三等に敵対するホリ公
ヤ一公に寄せ場労働者の
力をいよいよというほど見せ
つけてやるぞうだ。
とりわけ、仲間二重行
を加え、級人宣言を行
た西戸組には、さうい
トニマエをつけてこよう。

三回連続して
越冬準備
 1983年12月24日
 第14回釜ヶ崎越冬準備
 日産全備
釜ヶ崎日産労働者連合会
 632-4273

越冬準備委員会
 24日6時～
 越冬準備

仲間は
 今年もまた寒風吹かすたびに越冬の季節がやって
 来た。
 越冬闘争も今年で一四回目だ。毎年毎年、仲
 間から一人の死者も出さず、をスローガンに
 闘われている。
 一四年前と今と、同一のスローガンであること

ポリ・タダザ・役人連合の山谷
 越冬準備つづきを許さぬ

山谷の地において、寄せ場の暴力支配を
 なくすため、労働者のものとして守りつづけていく
 山谷準備団の闘争が始まり、今も続いて
 いくことは今までのとびつぎなどで伝えて
 いる。

そして、警察の騒ぎ防止を各団ごと
 た準備団つづきのことも伝えていく。
 新しい動きとして、都との団交会場
 ヘスパイを送り込み、挑発的行動して
 騒ぎの種をまいて準備して仲間をバク
 っている。これは準備団のネバリ強
 いに、都に挑発する。都からのあきらめ

とは何を意味するのか
 以前の越冬は四条ヶ
 辻公園で、テントをは
 り、炊き出しをおこな
 い、焚き火を囲んで
 仲間の団結を、それこ
 そ目に見える形でおこ
 なわれてきた。

まじりまく環境が悪くな
 っていることを確認する
 のみだ。
 我々の持っている権利
 であった就労申告書は取
 り上げられ、日雇健康保
 険もまた取上げられよう
 としている。

今は医療センターの
 軒下を借りて、夜をす
 こし、風間は医療相談
 などをする人以外には
 三角公園や路上のほか
 にすまいどころもない。
 何も、仲間の団結が
 失なわれてきた、と言
 いたいわけではない。
 ただ、団結の力をう
 かまわして、我々日産

寿ヤナンバ、釜の周辺
 で青カンをよぎなくされ
 ている仲間が、酔っぱら
 った少年達によって、足
 げにされ、殺されている
 ことが大々的に明らか
 になり、その事態は、今
 もなお、続いていく。
 苦しむ時にこそ立ち上
 らなければならぬ。
 集いに結集し、反撃た

支援のひろがりにしたえよう

三角公園を出合いの場に

昨冬闘争は釜ヶ崎の労働者の力だ
 だけでなく、多くの支援の人々、学生、
 医療従事者、企業労働者、キリスト
 者などの力をそ合わせて闘われてい
 ます。

とりわけ今年、春の青カンをや
 りなくされてきた労働者殺傷事件を
 きっかけとして、関西の地、釜ヶ崎
 における我々寄せ場日雇にあらため
 て目をむけ、共に闘って行くこと決
 められた人々が多く、今冬の越冬に
 参加されることになっていきます。

これらの人々は、南署の青カン者
 に対する指紋強制人権侵害事件や、
 築城四百年祭の一環としておこ
 なられた、物産館パレードの下準備
 として、皇太子東阪の翌日に大阪市
 長室が立案した、青カン者追放作戦

のさいに、人民パトロール、監視
 団として、青カンをよぎなくすれ
 ている我々の仲間のために尽力し
 てくれました。

また、行政に対す諸要求提出
 交渉のさいに大きく力をそえても
 らっています。

部落解放の闘いの経験や東横は
 今、あらためて、我々がひかた字
 びとり、ともに手をたぎさえて闘
 っていくかぬばならぬものとして
 目前に提示されています。

我々は、我々と共に闘おうとす
 る人々が、我々がヒサンであるか
 ら助けにくれようとしているので
 なく、我々が闘おうとしているか
 ら、闘っているから手をましのび
 てくゆるのちということを認識し

寄せ場・全労働者の連帯で右傾化を撃て

★アブレ地獄に特出しをさせ

★日雇健保の廃止を許さんぞ

★臨泊の拡充と民主化をはかれ

★釜ヶ崎に闘いと

生活の拠点をつくろう

★行路病死攻撃を許すな

★アオカンする仲間への

差別虐殺を許すな

★右翼・暴力団と闘う

山谷と連帯しよう

★分員団と差別を拡大する

戦争準備内閣を

打ち倒せ

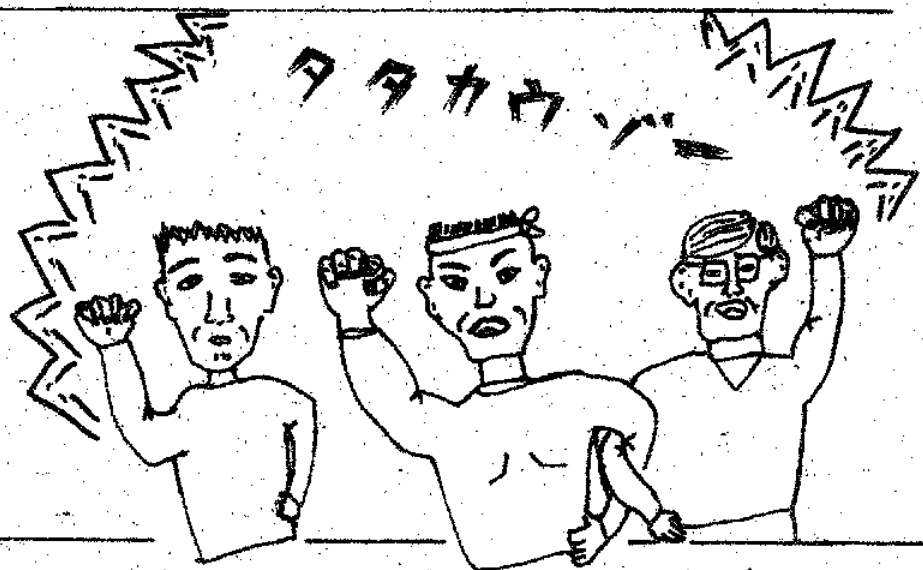
えつら

越冬突入集会二百名の結集で勝ち取る

全国寄せ場の団結で越冬を闘う

労働者と支援の連帯を基に確認

昨夜、三商公園において越冬突入集会が開かれた。二二二三回めつきりひえ二二二二二のうえ集会開始前には小雨がパラつき、集会の成立すらもあせぶまわっていたが、雨は本降りになることはなく、仲間の結集もあって、越冬の提起、確認が成巧裡におこなわれた。集会の中においては、釜崎の仲間に対して、山谷の仲間から現在たたかわれている右翼暴力団西戸組追放闘争の経過も報告された。



山谷には釜から十名以上の仲間が兄弟組織である山谷争議の応援に出かけてお

り、すでに三名の釜の仲間が警察によってとらわれて

いる。山谷の闘いは釜の闘

いでもあることがあらためて確認された。

越冬の各班も紹介され

た。(詳しくは裏面)

今年の特徴は大学の参加

数が目立って多くなったことだ。各大学の代表がそれ

ぞれ、それなりに釜の、我々に対して連帯の意志表面

をきた。労働連の仲間から

のあり、越冬闘争の布陣が

二日のスケジュール

朝五時フットンあげ

各自、使ったフットンをつトン部屋まで運び、医療センター前をかたづけする。同時にセンターで、日刊えつら、配布。

朝八時中心医療相談

医療センター前です。

夜八時フットン敷き

医療センター軒下で不十分です野営します。自分で使うフットンを持って、奥から順につめてフットンを敷いて下さい。

夜十時パトロール

パトロールは青カンする仲間の救助隊です。

越冬をかく迎え撃つ

各班体制の紹介

生活班

生活班は、今年まったく新しく設けられたものです。そのねらいは――

医療センター前の寢床で寝て炊き出この時間にならんで食べられる。その間、中にはダンボールヤマキカンひろいに出る労働者もかなりの人数いるが、よほど多くの労働者は特にこの専ら、居所もなく、マチロ子の焚火のそばで、風の当り口所々、風の当り所をうぎまきまきしている。そんな口々に腹に入っている。状態を時に流れて来るシヨーチコウで寝てしまひ、次の炊き出

を逃がす。そんな労働者同志のイサカイヤ、あるいはシンギにせられてケガをする。

この不毛のサイクルを、内職的「共同作業」で少しでも変えていこう!

とこのことです。ビニール再生の内職と共同生活を軸に、自立・自衛の体制を打ち固めよう!

医療班

朝八時から一〇時まで、医療センターの前に机がある。病気をケガで困っている仲間のため、医療相談を受け付けるためだ。医療相談のあと医療センター

パトロール班

夜一〇時、医療センター前から釜の内外において、人民パトロールが出発する。また、医療センター軒下の野営をくらないで各所に散らばって着カシとしている仲間に、声をかけて野営を知らせたり、病気で倒れている仲間を見つけて、一一九で救急車を呼ぶなどの活動をする。

警備班

野営地の警備を主な任務とする。医療センター軒下、寒風吹きすさぶなか、わずかなフトンで寝る仲間も寒ではないが、夜

その他に

以上の他に、兼をすき腹にのこのは胃に悪いので、少しでもタシになるようにオニギリを準備する。炊き出し班、市民館での映画集会や学習会、そして、ソフトボール大会などを担当する。文化・体育・学習班、会計・物資班、情宣班などがある。

えつら

才一四回越冬本格的に開始 福祉切り捨て軍拡路線で増える青カン

医療センター軒下での野営。人件パトロールが昨晩から開始された。
 フトンを選び込んでいるときからすでに、今晩から頼むで、と声をかける仲間が居たこともあって、今年

もまた、初日の青カン者数の記録を書きかえるのではないかと心配されていたが、フトン敷き、パトロールを終わって、やはり懸念されていたところが、記録の更新が確定した。

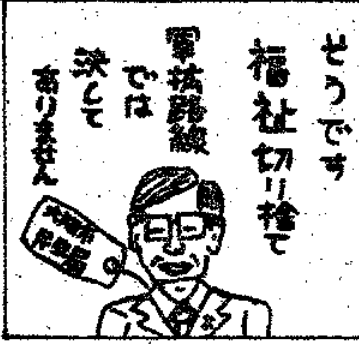
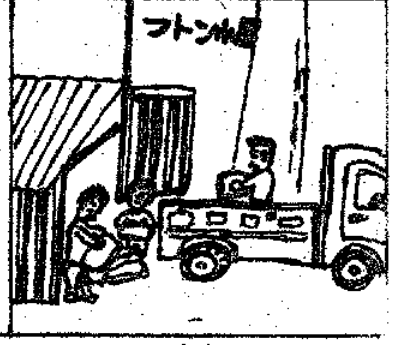
民間の仕事が増えて、少くも人が多くなったが、やはり、釜の仲間全てが青カンなくてもよくなるほどではない。福祉切り捨て、軍拡路線のもとでは、青カンはまだまだ増え続ける。

アルコール性肝障害などといつものに、お酒の飲みすぎは肝臓をこわす。特に釜ヶ崎では多い病気である。
 また、釜の病気の多くは酒が関係している。特に、仕事の疲れをいやすために

1 潘と痛気
 連載
 医療従事者の会

お酒を飲んで日ごとくに量が増え、毎日五合も十合も飲むようになる。
 そのうち顔のツヤがなくなり、肝臓がはれてくる。かく、数年の内であれば、アルコー

ルを止めれば、肝臓はほとんどもとにもどる。血液検査でも肝機能は正常になっている。
 また、アルコールを大量に数年以上飲んでいると、慢性スライヤ手足がこびりたり(神経炎)、ひどい時には脳障害をひきおこす。



パトロール班より

12月25日	センター・フン	南まわり	北まわり	計
青カン者数	211名	33名	55名	299名

フトン・衣類などの物資カンパ 人民の力で野営準備調う

昨日 午前十時から 野営に

使うフトンや 水にぬれたり、
極端に汚れた衣服しか持たない
仲間の着替え、などのための衣
類を、医療センター、良寛氏の
好意で借りている医療センター
横のガレージに運び込んだ。

全この間の仲間たち

オ九回世尊越冬寒から連帯の

マピールを送ります。横浜での

アオカン者虐殺事

件、山谷での暴力

団西戸組一夫豊主

義右衛門誠会によ

る国家権力と一体となった山谷

争議団に対する武装暴行組織破

壊攻撃などに見られるように、

日雇労働者に対する差別虐殺の

ガレージに一杯フトンが運び

込まれているのを見ていた釜の

仲間の中には、あれは行政から

助成金がでていゝんやろ、と言

っている者もいた。

南港の臨泊の収容人員すら年

々減らしている行政、できれば

攻撃が強まっています。

日雇労働者を使い捨てにし、

行路病死という形で殺していく

攻撃に対決す

る越冬闘争を

今年も又、断

固として闘い

ぬこゝではなにか！

今回の越冬闘争が、西戸組

皇誠会闘争に勝利するものと

て、全国闘争場の団結を強め闘

政治をなくしてこまいたりと考
えていゝる行政が、我々の運動に
助成金などだすわけがない。
すべての物資は、釜崎の越
冬闘争に連帯する広範な人達！

連帯心による提供・共同利用・連帯の強化

マゴいった多くの仲間たちな
るの救い運搬に多くの力こ
え物資は、山口回遊センターの斗

いぬこゝではなにか！

名古屋では今年の越冬闘争に

おいて、大曾根・熱田といゝ二

つの寄せ場での情宣も予定して

います。又、笹倉日雇労働組合

事務所にタイナマイトを放りこ

おとオドした四日布市の暴力業

者に対する闘いも予定していま

す。

団結して断固として闘いぬこ

ろ。

労働者、学生、キリス
ト者などによって提供され
四台の車と三〇名に及ぶ人
かを使つて運び込まれたも
のである。

この武器に送られていゝなれば
いゝなれば。こゝ
釜の仲間の一前々の「は
わくしつてくれやう」と
言つた者をおつたな。この
態度はまじなっている。

釜の仲間さんにももつた

カン。物資を、みんなの共

同利用で、みんなの目的を

して生かすありねばあんな

多くの仲間が、釜の仲間

連帯のあゝとて送られてい

る。今回の越冬闘争は、

あゝとて闘争の力だ。

えつら

政治の茶番劇 ↓ 釜ヶ崎の地獄

ナカソネは生々残りマンコ野垂れ死ぬ

中曾根が内閣総理大臣に居座り、自民党が新自由クラブを抱き込んで安定多数を確保したことが昨夜あきらかになった。

このことは、我々、寄せ場日雇にとつて、どのよう

なことを意味するのかわかぬ。中曾根政権の看板は「臨調・行革」として、軍事拡大である。

釜ヶ崎においては、行政の見直しの名のもとに既得権である就労申告書を取り

上げられ、今また日雇健保を取り上げられようとして、市更相の切り捨て強化、臨調三ヶ日受付けの廃止。

マンコが生きてのびるために中曾根政権打倒の闘いを。

この病気は普通はウイルス性の急性肝炎から、慢性肝炎になり、更に進行した状態である。しかし、アルコール性の肝障害が、この病気になる。

日本酒なら五合から十合を、ほとんど毎日飲んでいくとすると、十年後にはこの病気になる。

えつら 連載

肝硬変

その症状

この病気になるると、顔や腕にクモ状の小さい血管が浮きあがるようになり、手のひらが赤く、爪が白くなる。

更に進行すると、腹を食

道から血をはいたり、手足が腫がはれてくる。人によっては、手足がふるえたり、意識障害がおこつてきたりする。この段階でも、アルコールを完全にやめれば、悪化をくいこめることが出来る。とまには、かなりよくなる。

(局長記者の会)

市更相は今のところ政治を名目に切り捨てていき、生きて臨調の民主化を闘いしよう。二十九日・三十日には全員臨調に入ろう。生き残って闘おう。

周辺含む合計	349名
昨年	207名
一昨年	228名
一昨昨年	153名

センター 242名
昨日 143名

例年より

100名増

三月二十六日
パトロール班から

毛千代カンパ(築港支給分)

七万六千五百四十七円でした

昨日、築港の港労働者会館に

おいて毛千代が支給された。

一二月三、四日の毛千代支給

の時には越冬へのカンパ協力を

呼びかけて、五二万四千円のカ

ンパがあったが、昨日も同様カ

ンパ協力を求めたところ、七六

千五百四十七円のカンパが集

た。これで釜の仲間からの越冬

へのカンパは合計で六十万円を

こえたことになる。

釜の越冬は、このように仲間

昨日、組合事務所にて時刻高

校の先生が来られました。先生

の話では、昔の生徒は、

ワル川元気のり、個性

の強い生徒がたくさん

だが、近ごろの生徒は元

気がない、このことだっ

た。そして、授業中に質

問も少なく、このまま大

人になっただら……もう一つ

は、学校の現場を教える、

釜の闘いに注目

働かざる少年たち

なかなか安定した職場につくこ

とができない、という悩みもあ

る。

釜ヶ崎の大人の労働者

の置かれていいる労働、生

活環境を、そして闘いを

生徒達の前を示し、現実

に立ちあかうことを、共

に考え、学びたいと思っ

ている。このことでした。

の協力と支援の人々の協力によ

って成り立ち、闘われている。

越冬の支援に来ていいる人達は

身せ二を切つて闘争に参加して

くれている。仲間からのカ

ンパはすべて、炊き出し

野営、映画集会などに使わ

れる。多くの人が感謝!

市更相相談二名一却下二四名

医療相談のあと医療センター

の診療を受けた仲間が市立更生

相談所へおもむいた。

医療券発行は二五名、受診し

た人は二三名、市更相相談者二

〇名であったが、相談の結果、

四名が入院、二名が入寮したも

の、十四名が却下され、この

寮空に放り出された。

市更相の役人は言う、あなた

みたい人が多いや、二九日

の診治受付のときに来てや、

我々は、仕事量の変動によっ

て、道具箱の道具のよつた、使

われたり、見すてられたりする。

死者一名！無念

野営地近くで

昨日、朝五時過ぎ、野営

地近く、トヤ一天閣裏の路

地の電柱の下で、一人の仲

間が行きだおれ、死んだ。

いや、殺された。

行政の責任追及は言ひま

でもないが、パトロールの

時、あるいはその後、死

にいたるまでに気付かなか

ったが、大いにくやまれる。

北4回釜越冬皇
西成区茨の茶屋 2-5-23
釜白争討園 電話 632-4273

とらえ

南港臨時宿泊所あす受付開始(朝10時～朝三時)

福祉切り捨てに抗し、収容所の解放をめざせ!!

昨日(二十九日)とあす(三十日)の二日間、午前十一時から午後三時まで市立更生相談所において、南港臨時宿泊所の受付がある。

白手帳を持っていくか、正当な理由があつて手帳を持たないもので、宿泊や食事に関するものが対象者といふことになっている。多付朝日新聞で、市民生

局保護課は「労働者が南港のアレハ下宿舎より環境待遇のよい自強館入りをおう」と自ら、南港臨泊のロクでもなれことを認め、開

きなおつて、待遇の改善を

するのではなく、かえつて正月三ヶ日の受付をとりやめるといふ拳に出てきた。

そして、収容人員も年々減らされつづけ、今年は一、四百名となつてゐる。

食事は弁当、機動隊の巡回つき、まるで、収容所のよくな臨時宿泊所であるが

ミンギにせられた仲間、トヤ代をまとめておろしほどには金をもつていない仲間、トヤをとりそこねた仲間、

なんらかの理由で年末に仕事に行けなかつた仲間にとつては、最後の生活保障として、

福祉切り捨ての壁を打ち破り、臨時所の中で、収容者を労働者のものにかえ

前回の越冬の調査からみると、高血圧といふ病気が

釜では、三番目に多い病気である。

速報3 高血圧

高血圧病とは、最大血圧が一六〇ミリHg以上、または最小血圧が九〇ミリHg以上のものをさす。

普通は、四〇才以上の成人にみられる病気で、両親・兄弟にも同じ病気を持つてゐるものが多い。

原因をみると多いのは塩分・梅干シ・塩コソシ、ツケモノのとりすぎによる。そして、肉体労働やストレスは更に悪化させる。特にこの冬場は、高血

圧の人は、血圧が高くなり、脳出血や、心臓病の原因になる。

そのために、塩分をひかえ、寒さから身を守り、規則正しい生活を、予防ににつとめることが必要である。また、かつくり養生で

必要である。

御用納めと登

本年も今日を入れて残すところ四日となった。越冬が始まって以来、連日、組合事務所には貸金の未精算分の解決を求めて多くの仲間が訪れてくる。

また、病気を背負い込んだ仲間も、年内の持ち直さず大きさを求めて医療相談に訪れてくる。

越年資金のメドがたたなかつた仲間も、くせし涙をのみながら市更相に日参して居る。

市更相・大阪市民生局は、今年には二九・三〇日までの御用納めを、四日まで姿をあらわさぬつもりの方だ。

役所の御用納めに先立つてもはや多くの仲間が御用を納めさせられている。

昨日、野営地近くで一人の仲間が死んでいったことが確認された。別の日に、市更相で断れられ天王寺公園で一人行きだおれ大知川で一人入水自殺している。釜の中で一二日入ったの行路病死者は十一名と言う。救急車で運ばれてこられた仲間を入れること、どのくらいの数にのぼることか。

昨夜、野営地で泊ったYさんが、実は労災をみ消して着かんさよきなくされていったものであることが、労働相談であきらまらなくなった。

したが、五日目に現場でギックリ腰になったもので、二四日までは深谷から通院していたが、

二五日の晩は、大阪出稼労働者福祉センター・淀川会館に泊まり、区役所に相談にいったところ、市更相へ行けと言われ、釜にきパトロール班に保護されて野営地にたどりついた。

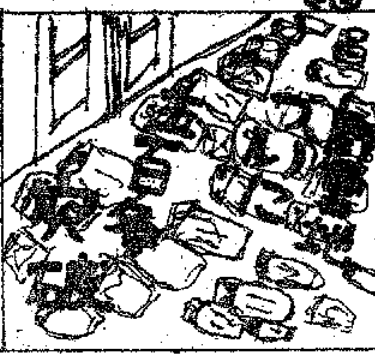
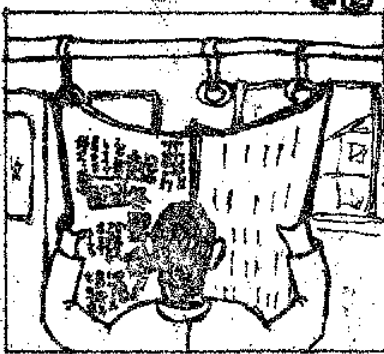
出稼 労災に泣く

なぜ着かんを 強いられるのか

Yさんは鹿屋からの出稼労働者で、出稼労働者手帳を持ち、鹿屋の職安から紹介されて、城東の深谷組で一二月九日から働いて

泉重から電話してもらったところ、三万円渡されて追いつけられ

どの役所でまともにとりあげられず、着かんをよぎなくされる。もし、パトロール班に会わなく労働者がなかつたら、と



パトロール班より

12月27日	セラー	昨日	周辺舎合計	＊130 260名	医療	受診数27名	入院	24名
⇒着かん者数	305名	192名	431名	＊120 299名	＊110 168名	相談24名	不明	

えつら

第4回 釜越冬室

西成区 釜越の茶屋 2-5-23

釜越の新聞

電話 632-4273

'83/12

第5号

野営地をあてこんでの福祉切捨て

役人の三日トロンコを追求し、臨泊内で待遇改善・民主化を

臨泊内のみ

今日、二十九日と明日の二日、大阪市立更生相談所においで、釜越の臨時宿泊所の受け付けがあらわれれる。午前一時から午後三時まで。今回は、正月三日、自強館での

受け付けはあらわれなれない。福祉切捨て攻撃の強まりのあかばと青カン者に対する差別、物産策のせいで、野営地はパンク寸前である。多くの仲間が裏面にある報

のようにならねばならない。福祉切捨て、單軌路線を打ち破り、臨泊入所を勝ちとり、待遇改善、民主化を闘おう。

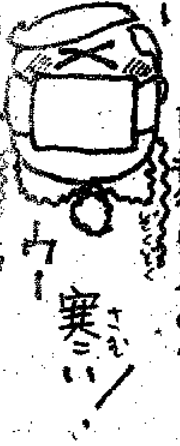
マンコか
て人間せ

肺結核は、結核菌による伝染病で、なると、微熱や寝汗、咳が続きたり、全身がだるく力が入らな

なったり、血をはいたりするようになりま

もいぜん多い病気です。とくに現在では中、高年層に若い人も多くみられるようになって

肺結核のII



12月28日

センター前 380名

周辺舎合計 523名

昨年 279名

昨日 279名

昨日 279名

昨日 279名

昨日 279名

市民生局・市更

相の人殺し役人

を許さん

25枚

23名

20名

4(1)名

2名

14名

0

行診

受相

院

入却不明

医療券

医療パトロール報告

昨日、第1回医療パトロールに引き続いて、第2回目の医療パトロールを行なった。今回は三軒公園・四角公園から新今宮駅周辺をパトロールした。特に昨年は車道の横断のために西武池袋線駅内会によるマコクリン作戦という名目での被害があった。今回の医療パトロールでも第1回

京都でも...

京都の仲間達が、京都における音楽者の実態調査をおこなった。これは、春における音楽者被害者被害事件のようなことが、京都の地においてもあるのか、音楽者をよりよく守るために、

遊藝場と同じように、マルユールによる肝臓癌の悪化のために園子に入園を要する行動者などオカンをしていた。また、マルユールのために昨年の夏闘った行動者もいた。あるいは、老女香で血圧が60以上もある行動者かいた。

遊はどつりり人達なのか、丸山公園で音楽を聴いていた女性が逮捕された。これは音楽者の人権も軽んじただけでなく、族差別にもかかわる問題である。この、同様の被害者あるいは音楽者などのインジメ、があるのか、なごも謝罪するためにおこなわれたい。

敵は、彼での行動のまじしに確保してあり、音楽者の半ばには音楽者を守る半ばとして半ばしていく必要がある。とりわけ、マメし地獄の長期化の中で音楽を守ることも、権力や民生局との半ばなくしてはありえない。市道に音楽者をもつ、行動者の入園を認めさせるために同様にこの音楽者を守る半ばしよう。そのに敵区では名前の仲間

今回は、京都駅を中心におこなわれ二の人の音楽者が確認された。内一名は、南區の格闘強者の闘いのがゆるるために、京都に来たと言っていたという。彼でも、春でも、山谷も、彼でも、そして、京都でも、音楽者をよりよく守る仲間への、音楽者の闘いが強い。

か「行路者死」の名の下に、虐殺されており、怒りを現実に変え、権力、民生局と闘い抜こう。

野重水死には絶対すまい!!

一二月に入って、西成区内において、野重水死にさせられた仲間は二五名にものぼっている(救急搬送された後で死亡した仲間も含む)。浪速区では三名で、四月から一二月までには二名、殺されている。天王寺区は、茶臼山、天王寺公園を中心として、四月から一二月までに八名だ。野重水死には絶対すまい!生きて、音楽者の天下をめざし、闘おう。

えつら

臨時宿泊所受付け 今日限り 正月三日は打ち切り

元気な仲間・困窮せる仲間 共に市更相前で。

仲間達へ

今年一年めくりよく働

けた仲間、おつかいでした。

イヤを確保し、越年対策

を練った仲間、あるいは較

取りが狂って、病気をな負

つて青カンをよぎなくされ

ている仲間、多くの仲間が

オニの故郷であるこの登

崎に帰って来ている。

元気な仲間を要請します。

青カンを強いられている仲

間のために、今日の市更相

前の闘争に参加されんこと

を。野垂れ死に攻撃をはね

のけ、困っている仲間が全

が使えないなど通りも悪く

また仕事やらで治療が中途

はんばになると何産も再発

が

し、電化していきいます。結

局、体の調子が悪いと思っ

く、早急の受診して、



員、臨時宿泊所へ入れるよ

う、力を貸して下さり。

昨日、臨時宿泊所の受付

けに並び、はねのけられた

仲間達、あきらめて野垂れ

死攻撃にさらされるままに

なることなく、今日、再び

政治の陣に並び。

ひねえて、いいものをたべ

て、ちゃんとした治療を

きっちり受けること、元

気になる一番の近道です。な

大もとの、労働条件の改善

生活の改善をなちとつてい

かなければ、寄せ場労働者の

結核は直せないし、根たや

こもてきないのです。

そして、厚生局の役人の
リクツ、説教に、現実をつ
きつけ、解決を求めよう。

臨時宿泊所の受付は今
日限りだ。昨年まであった
正月三日の受付はなさ
れな。

今日は、一度はねのけら
れたら二度並び、二度は
ねのけられたら三度並び、

市内各所で青カンを強い
られていた仲間達が官庁一
体となった攻撃によって追

いたてをくらっている。
今日、闘いをあこさなけ
れば、青カンを強いられた

け、今エリ一層身体が弱り
仕事が出てきけなくなる。
闘いに勝利しよう!

10-11班

セ29-
378名
(06年 231名)

周遊合計
470名
28%

228名

怒

臨泊へ昨日、四〇〇名のみ

再度臨泊の列へ、市更相糾弾を

市更相での臨泊受付のオ一
日はさんたんたるありさまで
あった。列に並んだ半数以上の
仲間が再び寒空の下に追いださ
れた。

大阪市民生局保護課の役人は

昨日、越冬突の街頭宣伝車が

市更相前での闘争を呼びかけ

認定通りを南下中、一人の酔っ

た仲間が道の端に

よけてくれず、車

から降りてよけて

もらったが、車が

通りすぎるたびに、ソエがわり

に持っていた棒切れで車の後部

を二度ほど軽くたたいた。

テレビでこう言ったそうだ。

。これからは、物を与える福祉

でなく、心の福祉を考えなければ

ならぬ。今は昔と時代が違

う。ナレーターによる説明では

今年収容人員は八五〇名で、来

情宣があわつたあと、また

その仲間にあつたので、なにが

気にさわつたのか聞いてみた。

酔ってうけ晴らすやり

仲間が言っ

たところでは

住之江競艇場

シラップで対決を

の階段でスベリおち、足首を折

って、現在入院中だが、今日

は外出して酒を飲んでいるとい

気はそつと静少すさ定たとい
う。それは労働者の自立をうな

かすためである、という。

心の福祉、労働者の自立、な

どという美辞麗句を並べたてて

いるが、その実体はなにか、よ

うするに、市更相の役人が、保

護の実態、システム、労働環境

などそのままたして、予算を

切り結めるために、説教をタレ

り。競艇場や役所へ電話したが

まともに取り上げてくれないで

ムシクシヤしてあり、なにが

仲間達だ。こはらいせにカラん

だといり。そめて警察に連れて

いかれれば、少なくとも言いたい

ことが言えると思つたと言う。

酔ってうけ晴らすする気持も

よくわかるが、素面で闘わなけ

れば勝利はおぼつかない。

滾す、ということだ。他なら
ない。

心や自立などというもの

は、それだけで存在するも

のでなく、具体的な肉體、

経済環境と不可分のもので

ある。まず、十分な保護が

優先すべきだ。

人ひとりの生命は地球よ

り重いと言われていゝるのに、

民生局の初上の空論である

心の福祉論、で、すでに

十二月に入って、西成区内

だけでも二五名の仲間が野

垂死を強られている。

正月三日の窓口を閉

すことが、なぜ労働者の自

立につながるのであるのか、自立と

は一人で路上で死出の旅へ

放立つことなのか。

民生局糾弾の闘いを！

83%
*7号

14回 釜越冬室
西成区 茨の茶屋 2-5-23
釜越冬室 電話 632-4273

えつら

今日は大晦日、二年間お疲れでした

来年も闘争に頑張りますよ

一九八三年も今日でおわり、明日からは一九八四年がはじまります。

越冬闘争は、八三年も八四年もかんけいなく、闘われていきます。そして、青い力を強いられる仲間には、

の暮、新春に関係なく青い力を強いられています。こかし、どこかで区切りをつけて、願ひ、明日のこと考えてみることも必要なことかもしれません。仲間達、それそれ、今年

一年はどのような年でしたか。釜ヶ崎の労働者団体にとつては、あまりよい年であつたとは言えなりでしょう。来年こそは大幅賃上げ、累加飯場追放などの闘いに勝利し、よい年にしましょう。

13回 越冬での自主診療
パトロールでも、手足がぶ

くんで、ハハハ
と息切れをさせている労働者
がいた。

6 息切れ 手足が 心不全

心不全とは、高血圧とか、弁膜症とか、心筋硬直などのために、心臓の動きが弱

くなり、心臓の血液を押し出すポンプ機能が低下する

ことである。そのため、尿量が一

少なくなり、顔や手足がぶくんだり、肺う。血(肺に血がたまる)のために息切れやせんそく発作がみられ

る。

とくに、釜ヶ崎の労働者は、肉体労働の過労や、冬の寒さのストレスによって、高血圧や心臓病を悪化させている。心不全の治療と予防としては、塩分をひかえて、過労、寒さをさけ、利尿剤や強心剤による治療を



12月30日	センター	昨年	用込舎舎合計	*130	*120
青カン者数	395名	286名	524名	348名	268名

市更相役人穴ごもり

多くの仲間再び青カン強いる

29日、30日の二日間、市更相で臨時宿泊所の受付がおこなわれたが、結果的には昨年を大きく下回る数の仲間が入れたにすぎず、多くの仲間が再び寒空のもとに放り出された。

越冬策の呼びかけにこたえて少なからず多数の仲間が市更相前の交差点に集まり、また、はねのけられた仲間も市更相周辺に集まり、市更相の福祉切り捨ての糾弾し、臨泊へ入れるよう要求した。

市更相の役人は、昨年、臨泊に入れたものは、今年はいれなうと言ったそうだが、昨年、臨泊

ならぶのは、さきも本人がぐりたりで一年をすごしたといわんばかりである。

釜のピンハネ、人夫出し、労災もみ道などの仲間の上におおいかぶさる様々な困難が、昨年と違い今年はなくなったとも言うのだろうか。

仲間の上下におおいかぶさる困難を放置したまま、個人の努力が足りないのとせめてるのは、まったくの筋落ちがうまいもの

最後のチャンス

病気で困っている仲間達、今二時から二時まで、

センター軒下で医療相談がおこなわれます。病気で困っている仲間は医療券を切ってもらって医療センターで診療、治療してもらいましょう。

明日は、医療センターの紹介状を書いてもらった仲間は再度、市更相へ行つて、相談を保護を申し出る事ができます。最後のチャンスです。病気の

医療班病院まわり

昨日、医療班が、越冬がままつて以来、医療券を切り、医療センターから市更相をへて病院へ入った仲間に対して、僅かだが衣類などを持って病院訪問をおこなった。

昨日は、アピコ病院、阪知病院に入院する仲間を見舞

仲間、肝硬変、結核、風邪など、ともかく医療センターで診療をうけて、市更相へ行こう。

臨泊のフレハバはまたガラガラで、役人の腹ごもり、の八五〇名より一〇〇人以上も余裕があるようです。福祉切り捨て、軍部拡大路線を打破しよう！

うことができたが、そのうちの一人、野道のフトンの中から意識不明のまま、病院へ運ばれた仲間は、やはり意識不明のまま、全身から何やら茶が何本もでており、看護婦さんにどうなのか聞いても、答えられないういという返事が返ってきた。入院したから医療班へ電話を